

真宗佛光寺派  
大阪教区・  
別院だより

# 大悲

第48号

令和5年(2023年)  
1月1日 発行



慶讃法会 真覚門主御巡教（佛光寺大阪別院）

「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え」というお言葉を、ご法事の表白文で拝読しています。

私は「前に生まれた者が、後輩や子や孫に、人として生きて往く道を教え、後に生まれた者が、先輩や両親がどのようにいのちを生き、今の私があるのかを訪ねていくのです」という人生訓としてよくお話ししました。

さらにこれは、親鸞聖人が出遇われた「ただ念仏のみぞまこと」の教えであることをまとめられた『教行信証』の結びに引用されたお言葉なのです。長年伝えられてきた真の仏道を歩んでほしいと、聖人が後に生きる私たちに託されたものであります。

今年五月に本山佛光寺で「慶讃法会」が厳修されます。その基本理念「大悲に生きる人とう願いに生きる人となる」は、お念仏を生きる拠りどころとされた先人を訪ね、自らも南無阿弥陀仏とともに人生を歩ませてもらうことだと私自身受け止めています。

（長田 譲）

# と う ひ が ん 到 彼 岸



てらされるわが身

西光寺 すえまつ 寿栄松 しょうけん 正顕

が身をてらすなり」とうたわれていま  
す。

「私たちは煩惱で仏さまの光は見えないが、つねに私たちをてらして（願って）くださっている」という内容です。

煩惱とは、私たちの迷いや苦しみの原因です。この根本が「貪欲」「瞋恚」「愚痴」といい、三毒といわれます。

## 三毒

あるスマートフォンの新シリーズが販売され、店頭に人がならぶ姿をニュースで見ました。流行のものを欲する姿を見て、貪欲（むさぼり）を感じていました。また違うニュースで、あおり運転のシーンが映され、少しのことで怒る人を見ることで、瞋恚（いかり）を感じていました。

しかしスマートフォンや、あおり運転のニュースを見た時に、「愚かだ」と思っていました。私自身も興味のあ

るものを手に入れたと思います。焦って車を運転したときには、前を走っている車にあおり運転と思われるかもしれないかもしれません。他人ごとと見ていたニュースが、まさに自分のことだと気づいたことで私こそが愚かだと感じ、愚痴（おろかさ）というものを知らされました。

## つねにてらされる

親鸞聖人は和讃で「つねにわが身をてらすなり」と締めくくられています。これは私たちが生活する中で、わが身から、煩惱は切り離せないものだから、煩惱は切り離せないものだから、わが身のように思います。煩惱があることに気づいていない私に、仏さまは「気づけよ」とてらし続けてくださっているのだと受け止めています。

## 煩惱とは

除夜の鐘は人の一〇八の煩惱を払うための行事だと世間ではいわれています。大晦日の夜、除夜の鐘を聞きながら煩惱とは何かと考えたことはないでしょうか。

親鸞聖人は高僧和讃で「煩惱にまなこさえられて 摂取の光明みざれども 大悲ものうきことなくて つねにわ



# 如にょ是ぜ我が聞もん

## 愚ぐとく禿とくの名乗り

滋賀南教区

正嚴寺

福嶋ふくしま崇雄そうゆう師



令和四年十月二十七日、大阪別院報恩講ならびに慶讃法

会御巡教が厳修されました。

ご門主のおことばと慶讃法会の基本理念のお味わいを福嶋崇雄師よりお話しいただきました。

### 教信きょうしん沙弥しやみ

親鸞聖人にはお二人の尊敬する師がおられました。それは法然聖人と教信沙弥と言われています。教信沙弥は、親鸞聖人より三百数十年も前の方ですが、念仏を称えながら

一生を終えたという伝説の残る念仏ひじりです。

加古川の河原の粗末な小屋で、旅人の荷物を運ぶなどの労働をしながら妻子と共に貧しい暮らしをされていました。その間、常に「南無阿弥陀仏」と念仏を称え続け、小屋の西の方角には壁がなく、浄土

に向かって合掌していた念仏者で、人々は教信のことを阿弥陀丸と呼んでいました。また、自分の遺体は飢えた犬や鳥に与えてくれとの遺言に従って野原に置かれた遺体

は、動物たちに食べられて頭だけが残ったそうです。

そのような言い伝えによるものでしょうか、由緒寺院にある開山堂の教信の木像は故事にちなんで首から上の頭部だけのお姿でした。

### 非僧ひそう非俗

親鸞聖人の生涯は教信沙弥の生涯と重なって見えます。親鸞聖人も剃髪ていはつをせず、妻子を持ち、また越後や関東のいなかのの人々と共に念仏を称えながら日暮しをされました。

そして「私は教信沙弥と同類のものである」と常に仰せられていたと伝えられています。「僧に非あらず俗に非ず。このゆえに禿の字をもつて姓となす」という親鸞聖人のお言葉も、教信沙弥の生き方から非常に大きな影響を受けられたからではないかと、福嶋師は説かれました。

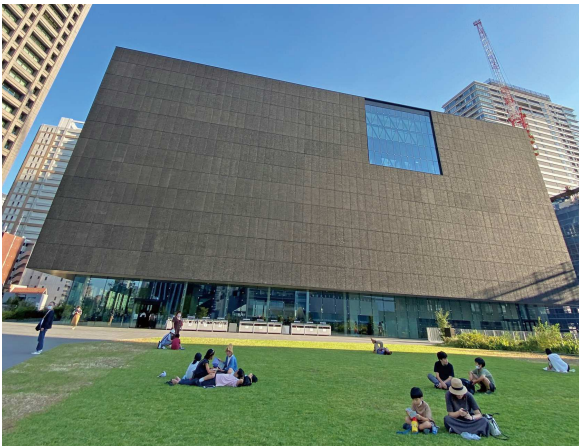
### 聴聞して

親鸞聖人が、戒律を守る清僧でなく、妻帯し、愚禿と名乗り、非僧非俗の念仏ひじりとして生活をされたのは、「ただ念仏申す」という法然聖人の教えが親鸞聖人自身の人生の一大事となったからでした。その根底には教信沙弥の生活が手本としてあったと聴かせていただきました。

(葦名彰 記)

# 大阪探検

## なかのしま 大阪中之島美術館



中之島美術館の外観



ジャイアント・トラヤン(左)と猫の彫刻

大阪中之島美術館は、建設構想から約40年、さまざまな紆余曲折や模索を経て2022年2月22日、水都大阪のシンボル、中之島に開館しました。収蔵品は大阪の実業家で美術蒐集家でもあった山本發次郎のコレクションを基に、日本を代表する洋画家、佐伯祐三をはじめとし、その数は6千点あまりにのぼります。

### 中之島らしさ溢れる

美術館は黒塗りが印象的な外観ですが、江戸時代、この辺りには百以上の蔵屋敷が並び、その壁には黒い瓦が張り付けてあり、当時の中之島でも黒は特徴的な色でした。

また、1階と2階は通り抜けが可能で、美

術館の展示を見に来た人でなくても出入り自由な空間になっています。この通り抜けの構造も黒塗りと同じく中之島のものです。蔵屋敷は敷地内に舟を入れて荷物を積み下ろしできるように、一方人間は川とは反対側から入って来られるように通り抜けが可能な構造になっていました。

展示室と収蔵庫が4階と5階にあります。これは川に挟まれた中之島で水害が起きた場合も考慮してのことだそうです。

### 展示の方針

収蔵品の常設展だけでなく、他の美術館の作品も企画展として展示し、常に新鮮な展覧会を目指しておられます。

今年1月には「大阪の日本画」、4月には「佐伯祐三展」と大阪の作家の作品が味わえる展覧会が開催されます。

アクセスは京阪中之島線渡辺橋駅より徒歩約5分、大阪メトロ四つ橋線肥後橋駅より徒歩約10分です。

なお入場料金は展覧会によって異なります。

(佐々木太一)

# ごえんさんを訪ねて

さいしやうじ 最勝寺 (豊中市) なかい しょうりゅう 中井 翔隆 さん



大悲第45号にて新しい編集者の募集をしたところ立候補してくださいました中井翔隆さん。「ごえんさん」番外編と題して彼の魅力を紹介いたします。

## 会社勤めからお寺へ

昭和63年生まれの34歳。猫好きの一男一女のお父さんです。趣味はドライブですが、今は子育てに夢中になっておられます。

幼少の頃から自坊の手伝いをし、大学卒業後、車の販売会社に就職されましたが、会社勤めをしながら休日には月参りもする日々を過ごされてきました。そして27歳の時、退職され本格的に法務に就かれます。そんな中、初めてご門徒の葬儀に出勤した際、大事な人との別れを受け止めきれない家族の涙や言葉を前にして、自分生死に携わる現場にいるのだと衝撃を受けられたそうです。



本堂にて家族写真

また自坊の掲示板に掲げる法語を担当し、どなたが読まれてもスッと入ってくる言葉を見やすい文字で書くことを心がけておられます。

## 大悲の編集者として

編集者として参加してすぐに大悲第46号で「大阪探検」と「編集後記」の記事を担当し、編集会議に参加した時の感想を伺いました。

「これまで自坊の寺報を毎月発行してきました。家族全員に原稿担当が

あり、編集会議では各原稿をみんなで厳しくチェックをし、議論を重ねます。しかし厳しすぎるゆえ、なんだか気まずい雰囲気になることも……」

「大悲の原稿も今までの経験をふまえて細かな言葉選びや、誤字に気をつけて書きました。しかし提出した原稿に対して編集者の皆さんからこれまで気づかなかった細かな指摘をいただいてもとても勉強になりました」

そして「自身のスキルアップを目指しながら、編集の皆さんとより良い大悲の誌面を作っていきたいです」と話されました。

また今後の意気込みとして「時代の変化と共にお寺のあり方も当然変わってくると思います。まずはSNSを使って広く情報発信をしてお寺の活動を見てもらいたいです」とキラキラした笑顔で語ってくださいました。

(玉出宗順)

# 大悲トピックス

■大阪別院報恩講ならびに慶讃法会御巡教

令和4年10月27日、真覚門主御親修のもと  
報恩講が厳修されました。



お稚児さんによる草鞋直し



大阪別院報恩講



御親教

15年ぶりにお稚児さんの草鞋直しを復活して、華やかな法要となりました。お勤めに続いてご門主より御親教（おことば）を賜り、慶讃法会の基本理念を受けた福嶋崇雄布教使の法話を聴聞しました。

引き続き御巡教でご門主より「来年の慶讃法会に向けて、共に念仏相続の歩みを運ばれんことを念願します」とおことばを賜り、最後に恩徳讃を唱和して閉会となりました。

人工芝施工・内外装工事・サイン・ディスプレイ・テント



**協和産商株式会社**

<https://www.kyowa-ss.co.jp/>  
 本社：大阪市東住吉区今川8-1-14  
 TEL:06-6702-5722 FAX:06-6702-5732

御本山  用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055  
 (〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入  
 電話(075)371-0367(代)  
 FAX(075)371-5088

創業100余年・お墓の専門店

**石留石材** 株式会社

土日祝もご相談いただけます(8時~17時)  
 **0120-53-5578**  
 ■本社：大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

寺院用オンラインショップ  
 オープンいたしました!!  
[wakabayashi-jiin.com](http://wakabayashi-jiin.com)



若林仏具 オンライン

創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具  
**株式会社 若林佛具製作所**  
 京都本社 / 京都市下京区七条通新町東入  
 ☎0120-37-8585(各店共通)  
 築地店・札幌店・仙台営業所・福岡営業所  
[www.wakabayashi.co.jp](http://www.wakabayashi.co.jp)

浜屋は関西最大級の  
 お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の  
 専門店です。

やすらぎの  
 世界を創る  **浜屋**

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル  
 お問い合わせ  
 お申し込みは **0120-1616-94**  
 ●受付時間/午前10時~午後6時30分

お墓なんでも相談センター

永遠の想いを像に還るお手伝い

 **ヨシザワ**  
 株式会社 吉澤石材工業所  
 シキュー イシヤニ  
 フリー  
 ダイヤル **0120-49-1482**

## だいひ 絵日記

- 10月 7日 (金) 大悲の会編集会議 (第48号読み合わせ)  
10月27日 (木) 大阪別院報恩講・大阪教区慶讃法会御巡教  
11月 8日 (火) 大悲の会編集会議 (第48号読み合わせ)  
11月30日 (水) 大悲の会編集会議 (第48号読み合わせ)  
12月 2日 (金) さつき会研修会

(浄土を念じてこの世を生きる、講師：佐々木 太一 師)

- 12月16日 (金) 佛青懇和会研修会 (宗教法人法のお話とQ&A、講師：道野 真弘 師)  
12月23日 (金) 大悲の会編集会議 (第48号発送作業・第49号内容検討)

### ■お悔やみ

謹んで哀悼の意を表します。

第六組・高照寺

隅谷 朋子様 (10月27日寂)

### ■懇志御礼

滋賀県長浜市 光福寺様

新潟県長岡市 長善寺様

岡山県真庭市 光林寺様

宮崎県小林市 専寿寺様

(大阪別院輪番 葦名 彰)



慶讃法会御巡教

■**広告募集**(『大悲』発行は広告によって支えられています)  
企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。  
1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

■**定期購読**(ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)  
『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

# 沙羅



寺院コム

<http://jiin.com>

協 賛

## 佛青懇和会

大阪教区の青年会  
(会長：門川崇志)

協 賛

## さつき会

大阪教区の坊守会  
(会長：玉出みゆき)

協 賛

## 法友会

大阪教区の住職会  
(会長：寺田宗隆)

どなた様でもお参りいただけます

## 法要・法話会のご案内

### 大阪別院修正会

1月2日(月) 正午

### 大阪別院彼岸会

3月18日(土) 午後2時

法話：中井 翔隆 師(最勝寺)

3月21日(火・祝) 午後2時

法話：長田 讓 師(正念寺)

3月24日(金) 午後2時

法話：葦名 彰 師(妙圓寺)



## 今月の法語

今月にいる私

「運命」と受け取れば他人事

「ご縁」といただければ自分事

## 編集秘話

今号の編集会議、「如是我聞」で紹介された教信沙弥のお話に興味を持ち、先日東加古川の教信沙弥ゆかりの教信寺にお参りしてきました。「百聞は一見にしかず」念仏ひじりの生きざまの一端を垣間見た思いです。編集過程で、大悲の会メンバーどうし、互いを励みとして、切磋琢磨し新年を迎えました。(長田)

## 編集後記

昨年10月27日、大阪別院報恩講に併せて慶讃法会御巡教が勤められました。その際の記念品として『日めくり法語カレンダー』を大悲の会で作成しました。その勢いに乗って?、今号より「今月の法語」を掲載します。新たな法語をこのメンバーで作っていきたいと思います。山門掲示板などにご活用ください。(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第48号(冬号)  
令和5年(2023年)1月1日発行 (発行部数2200部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会

長田 讓(会長)

隅谷 俊紀(副会長)

寿栄松 正頭(会計)

玉出 宗順(会計)

門川 崇志(監事)

佐々木 太一

葦名 彰

中井 翔隆